

夏秋きゅうり新規栽培者向け【一歩先行く作業のポイント 9月～】

◎ これからの管理

アーチの天井部分が過繁茂状態になっていると、アーチ内部への光の入りが悪くなり、流れ果(実が肥大しない、または黄変してしまう症状)の増加や病気発生を助長します。日没が早くなり、日照時間が短くなることも踏まえ、なるべくアーチ内部に光が入るよう、しっかり手を入れましょう。

摘葉・摘果	<ul style="list-style-type: none">・摘葉：例年、べと病、炭そ病、褐斑病、つる枯病等の発生が見られる。病気の蔓延を防ぐため、病斑を見つけ次第摘葉し、ほ場外へ持ち出す。・枝の更新：樹勢が弱っている場合はなるべく行わない。止める場合は切り戻し等を行わず先端で止める⇒切り戻しを行っても根が動かず、さらなる樹勢低下を引き起こす。勢いの強そうな枝「力枝」等を3本残す感覚で放任する。・奇形果の摘果：曲がり果、尻太果、尻細果などの奇形果は、見つけ次第小さいうちに摘果する。⇒樹への負担を減らす
追肥・かん水	<ul style="list-style-type: none">・追肥：追肥は収穫量 500kg/10a で窒素成分量 1～2kg 程度を基本とするが、樹勢や果形を見て調整する。・かん水：1回に多量に行わず、こまめに行う。滞水させない(長時間滞水すると根に障害が発生。水田転換畑は要注意)。・葉面散布：樹勢の回復やなり疲れ防止に有効。目的(光合成促進、微量要素補給、葉色回復、着果・肥大促進等)に合わせて使いわける。・液肥の土壌かん注：根のそばに直接届くので反応が早く、根部の活性化に有効な手段。液肥と共に酸素供給剤を加えると効果的。

◎ ほ場の片付け

- ①きゅうりが完全に枯れたら、できるだけ根を残さずに抜き取ります。
- ②枯れた株をネットから切り離し、ほ場の外へ持ち出し埋却等、※適正に処分しましょう。
※周辺に住居がある場合には、できる限り焼却(野焼き)によらず、埋却等で処分を行いましょう。やむを得ず焼却する場合には、管轄の消防署へ届け出を行い、早朝等の風の無いときに行いましょう。また予め近隣住民の方へ一声かけ、了解を得ておくことも大切です。
- ③エスター線(誘引線)は、1本ずつ巻き取ります。先端にテープ等で印をしておくと、次に使用するとき(ほどくとき)に便利です。
- ④ネットはアーチパイプから外し、ひとまとめにしておき、JAの廃プラ回収日等に出します。
アーチパイプはオスとメスを分け、手で持てる程度(5～10本)に束ねます。
- ⑤資材はまとめて倉庫や軒下等に置いて保管します。

◎ 来年の栽培に向けて

○ 資材の片付け

病害が多発したほ場では、アーチパイプにも病原菌が付着します。アーチパイプをふき取って病原菌の持越しを防ぎましょう。また、施設栽培では、施設内の資材の隙間等でダニが越冬する場合がありますので、ビニールとパイプの間なども洗浄をしましょう。

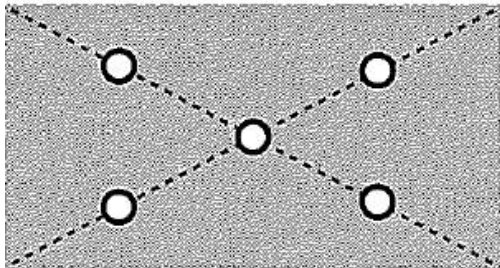
○ 土壌診断

土壌診断結果に基づいた適正施肥を心掛けることで持続的で安定した栽培につながります。片付けが完了し、土壌が凍結する前に採土し、JA 等へ土壌診断を依頼しましょう。

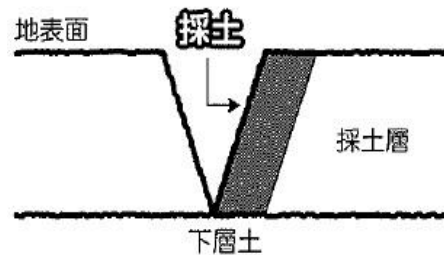
採取した土は、日陰で乾燥して混ぜ合わせて1つにまとめ、2mm目ほどのふるいにかけて、その中から最低200gを専用封筒に入れ提出してください。詳細は JA へお問い合わせください。

【土壌の採取方法】

①畦畔や道路、水路など影響のない所(10m程度離れた所)の4~5か所(対角線)から採土します。



②表面のゴミや有機物等を除き、スコップで下の図のような穴を掘り、移植ゴテで斜め柱状に採土します。



◎ 品種選定

多種多様の品種がありますが、それぞれの経営に合った品種選定が重要となります。南信州管内では、露地栽培、雨よけ栽培ともに「おおのぞみ」が主流となっています。露地栽培では他にも「夏もよう」や「蒼夏」も栽培されており、雨よけ栽培では、近年「ニーナ Z」の取扱いも増えてきています。

品種名	作 型		草 勢	特 徴
	雨よけ	露地		
おおのぞみ	○	○	やや強め	うどんこ病に耐病性があり、褐斑病にも比較的かかりにくい。草勢はやや強めて側枝の発生も良いため、整枝管理を遅れずに行う必要がある。収量の山谷が少なく、果形の乱れも少ない。ウイルス病にはやや弱い。
ニーナ Z	○		極めて強い	うどんこ病、褐斑病に強い耐性を示し、べと病にも強い。草勢は極めて強く、分枝性が良い。主枝着果率はほぼ100%で、果形が終始安定し肥大性が良い。高品質で秀品率が高く食味は良好。
夏もよう		○	中	側枝は連続着果率が高く、肩こけ果は少ない。草勢は中で、子づる、孫づるともよく発生し、節間は間伸びしにくい。褐斑病、うどんこ病、ウイルス病(ZYMV)に強い。
蒼夏		○	強め	うどんこ病、べと病、褐斑病に耐病性がある。草勢は強めであり、初期から成り込みが良く、間断なく分枝し肥大性が良いため、長期にわたり秀品多収性を示す。